

健康福祉常任委員会
所管事務報告

資 料

令和5年11月27日

中央病院の経営状況について（令和5年度上半期）

中央病院 病院改革担当部 経営企画課

1. 概況

- ・新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の取り扱いについて、感染症法上の分類が2類相当から5類に移行するなど、大きな転換期を迎えました。
- ・新型コロナの通常対応への完全移行までの間、公立病院として5類移行後も発熱外来の継続や入院受入れ用の病床確保などの取組を継続しつつ、通常診療（急性期医療）の提供に努めています。
- ・4月、8月に院内感染が発生し、一時的に発生病棟において入院患者の受入れ制限を行うなど、依然として、新型コロナの影響により通常診療が制限を余儀なくされる状況が継続しています。
- ・経営改善に向けた取組としては、令和2年4月に策定した経営改革プランの見直しを行い、見直し前の計画の取組実績や新型コロナ対応等による医療環境の変化を踏まえ、取組内容と経営指標を時点修正するとともに、「公立病院経営強化プラン」として位置付けるために必要な内容を追加しました。
- ・経営改革プランでは「病床稼働率 80%の達成」を病院全体の目標として掲げていますが、上半期の病床稼働率は72.3%、1日平均患者数は109.2人（計画比▲7.7ポイント、▲11.8人、前年度比▲0.3ポイント、▲0.4人）にとどまり、目標を達成することはできませんでした。
- ・医業収益については、約23億1,400万円（計画比▲4,600万円、前年度比+6,700万円）となり、前年度を上回るものの、計画値には届きませんでした。
- ・医業費用については、約28億1,600万円（計画比▲3,200万円、前年度比▲3,800万円）となり、計画よりも抑制できています。
- ・医業収支は約5億200万円の赤字となり、計画値を1,400万円下回るものの、前年度からは約1億500万円改善しました。
- ・純損益については、約1億8,000万円の損失（計画比▲1,000万円、前年度比▲2億5,700万円）を計上し、前年度、計画値ともに届きませんでした。なお、前年度から大きく悪化した要因は、新型コロナ関連補助金の減額により、医業外収益が前年度から約3億7,200万円減少したためです。

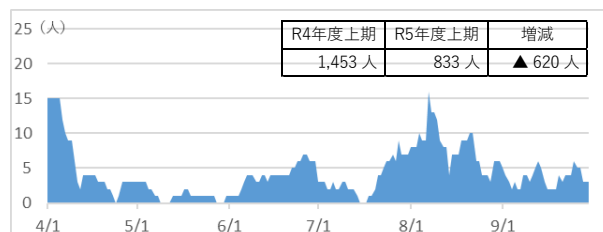
2. 上半期における主な取組

(1) 新型コロナ対応に向けた取組

①入院及び外来における対応

- ・5類移行後から9月末までの間、発熱外来の継続や入院受入れ用の病床確保（感染小康期：10床、感染拡大期：25床）などの取組を継続しました。
- ・院内感染が発生した時期（3月下旬から4月、8月の2回）は、新型コロナ等の感染症の流行などで入院患者数が増加した時期と重なります。

<入院患者数の状況（R5.4月～9月）>



②新型コロナウイルス感染症重点医療機関体制整備事業補助金（空床補償）の状況

- ・10月以降、病床確保に伴う当該補助事業は、都道府県から指定を受けた医療機関が対象となります（西宮市内では北部1病院、南部2病院が指定されています）。
- ・中央病院は兵庫県からの指定がないため、10月以降、病床確保に伴う補助金は見込めません。

<空床補償額（R5.4月～9月）>

対象期間	補助額	備考
4月1日～5月7日	40,825千円	・収入済 ・空床・休止1床当たり71,000円
5月8日～9月30日	86,940千円	・収入予定 ・同36,000円
合計	127,765千円	

(2) 病床稼働率及び収益向上に向けた取組

①部門別ヒアリングの実施

- ・年度当初に経営層による部門別ヒアリングを実施し、経営改革プランを踏まえた各部門の目標を設定、共有しました。
- ・各部門目標は、目標管理制度を通じて、職員個人の目標へ反映しています。
- ・病床稼働率が伸び悩んでいる診療科については、経営層によるヒアリングを随時実施し、早急に対策を実施するよう指示しています。

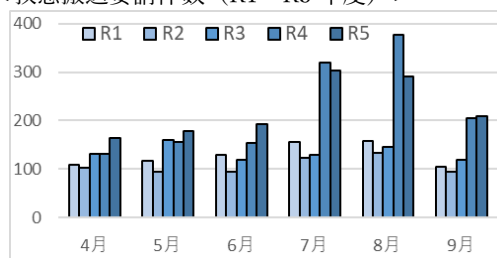
②診療所等への訪問実施

- ・上半期は、中央病院の連携登録医を中心に、訪問時に各科のPRとともに、統合新病院のパンフレットを配布し、開院時期などの情報を周知しました。訪問件数は100件（計画値200件/年）となりました。

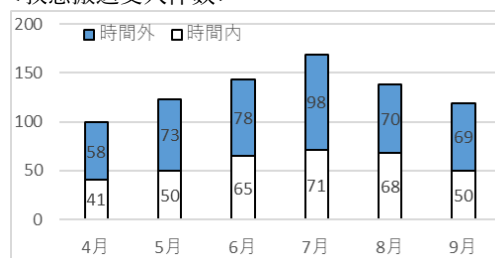
③診療時間内の救急応需体制の強化

- ・令和4年度の救急搬送要請件数は、直近の5年間で最高値となり、令和5年度も同水準となっています。このことを踏まえて、診療時間内の救急応需体制の強化について検討し、10月から専攻医¹を中心とした専任配置制を試行実施するなど、体制の強化に努めています。

<救急搬送要請件数（R1～R5年度）>



<救急搬送受入件数>



④DPC データを活用した経営改善の取組の検討・実施

- ・他病院とのベンチマーク比較を通じて、継続的に各指導料等の算定率向上に取り組んでおり、各項目の算定率はいずれも他病院の平均値を上回っています。

<過去3年の取組実績>

- 薬剤管理指導料（増収効果額 450万円/年）、外来迅速検体検査加算（同 200万円/年）、リハビリテーション総合実施計画評価料（同 140万円/年）、栄養食事指導料（同 130万円/年）
- ・データ分析の結果を基に、後発医薬品への切り替えを推進しています。後発医薬品の使用割合は90%を超え、6月から後発医薬品使用体制加算2から同加算1に届出を変更しました（同 120万円/年）。
 - ・そのほか疾患ごとに出来高収益との比較や在院日数など、様々な切口で他病院との比較分析を進めており、現時点で具体的な成果はありませんが今後も取組を継続します。

¹ 専攻医とは、従来の「後期研修医」に相当する呼称で、新専門医制度の下、初期研修（2年間）を終え、専門研修プログラムを受けている医師を指します。

3. 収支実績及び業務実績

(1) 収益的収支状況

(単位：千円)

項目	計画との比較				前年度との比較		
	R 5 実績 (A)	計画値 (B)	増減値 (A)-(B)	達成率 (A)/(B)	R 4 実績 (C)	増減値 (A)-(C)	増減率 ((A)-(C))/(B)
医業収益	2,314,147	2,360,450	▲ 46,303	98.0%	2,247,392	+ 66,755	+ 3.0%
入院収益	1,281,363	1,321,110	▲ 39,747	97.0%	1,207,137	+ 74,226	+ 6.1%
外来収益	774,898	791,162	▲ 16,264	97.9%	796,502	▲ 21,604	▲ 2.7%
その他医業収益	257,886	248,178	+ 9,708	103.9%	243,753	+ 14,133	+ 5.8%
医業費用	2,815,759	2,847,687	▲ 31,928	98.9%	2,853,855	▲ 38,096	▲ 1.3%
給与費	1,376,296	1,368,164	+ 8,132	100.6%	1,368,164	+ 8,132	+ 0.6%
材料費	591,831	618,690	▲ 26,859	95.7%	575,044	+ 16,787	+ 2.9%
経費	688,211	692,372	▲ 4,161	99.4%	692,372	▲ 4,161	▲ 0.6%
減価償却費	150,855	151,414	▲ 559	99.6%	209,630	▲ 58,775	▲ 28.0%
その他医業費用	8,566	17,047	▲ 8,481	50.2%	8,646	▲ 80	▲ 0.9%
医業収支	▲ 501,612	▲ 487,237	▲ 14,375	—	▲ 606,463	+ 104,851	—
医業外収益	364,915	364,642	+ 273	100.1%	736,902	▲ 371,987	▲ 50.5%
医業外費用	49,337	49,636	▲ 299	99.4%	55,981	▲ 6,644	▲ 11.9%
経常収支	▲ 186,034	▲ 172,231	▲ 13,803	—	+ 74,458	▲ 260,492	—
特別利益	6,768	2,507	+ 4,261	270.0%	6,323	+ 445	+ 7.0%
特別損失	315	246	+ 69	128.0%	3,643	▲ 3,328	▲ 91.4%
純損益	▲ 179,581	▲ 169,970	▲ 9,611	—	+ 77,138	▲ 256,719	—

※現金支出を伴わない費用（減価償却費など）や一般会計繰入金など12等分で算出している項目があります。

※「計画値」は、経営改革プランに掲げている年間の計画値をそれぞれ期間に応じた経過日数で除して算出しています。

【主な増減項目と内訳】

項目	計画との比較		前年度との比較	
	増減値	増減理由など	増減値	増減理由など
医業収益	▲ 46,303		+ 66,755	
入院収益	▲ 39,747	・患者数の計画未達	+ 74,226	・診療単価の増加 (R5 64,139円 + 3,936円)
外来収益	▲ 16,264	・患者数の計画未達	▲ 21,604	・患者数の減少 (R5 378人/日 ▲12.4人/日)
その他医業収益	+ 9,708	・臨床試験研究経費の増加	+ 14,133	・同左
医業費用	▲ 31,928		▲ 38,096	
給与費	+ 8,132	・会計年度任用職員Aの医師（専攻医など）の増加	+ 8,132	・同左
材料費	▲ 26,859	・入院及び外来収益の計画未達	+ 16,787	・入院及び外来収益の増加
経費	▲ 4,161	・光熱費の減少	▲ 4,161	・同左
減価償却費	▲ 559	・固定資産の減少	▲ 58,775	・リニアックの償却終了に伴う減少
その他医業費用	▲ 8,481	・研究研修費の抑制	▲ 80	・資産減耗費の減少
医業外収益	+ 273	・空床補償補助金の増加	▲ 371,987	・空床補償補助金の減少
医業外費用	▲ 299	・企業債利息の減少	▲ 6,644	・長期前払消費税額償却の減少
特別利益	+ 4,261	・過年度損益修正益の増加	+ 445	・同左
特別損失	+ 69	・過年度損益修正損の増加	▲ 3,328	・看護学生奨学金返還免除の減少

(2) 業務状況

項目	計画との比較				前年度との比較			
	R 5 実績 (A)	計画値 (B)	増減値 (A)-(B)	達成率 (A)/(B)	R 4 実績 (C)	増減値 (A)-(C)	増減率 ((A)-(C))/(B)	
入院	1日平均患者数 (人/日)	109.2	121	▲ 11.8	90.2%	109.6	▲ 0.4	▲ 0.4%
	一般 (人/日)	104.6	-	-	-	101.7	+ 2.9	+ 2.9%
	コロナ (人/日)	4.6	-	-	-	7.9	▲ 3.3	▲ 41.8%
	病床稼働率(151床) (%)	72.3	80	▲ 7.7	90.4%	-	-	-
	新入院患者数 (人)	1,896	2,005	▲ 109	94.5%	1,939	▲ 43	▲ 2.2%
	平均在院日数 (日)	10.5	11.0	▲ 0.5	95.5%	10.3	+ 0.2	+ 1.9%
	診療単価 (円)	64,139	59,500	+ 4,639	107.8%	60,203	+ 3,936	+ 6.5%
外来	1日平均患者数 (人/日)	378.0	390	▲ 12.0	96.9%	390.4	▲ 12.4	▲ 3.2%
	診療単価 (円)	16,530	16,650	▲ 120	99.3%	16,586	▲ 56	▲ 0.3%
その他 指標	救急搬送受入件数 (件)	791	752	+ 39	105.2%	752	+ 39	+ 5.2%
	救急搬送応需率 (%)	59.0	-	-	-	56.0	+ 3.0	+ 5.4%
	応需率(補正後) (%)	98.5	100	▲ 1.5	98.5%	97.5	+ 1.0	+ 1.0%
	紹介率 (%)	82.5	78.0	+ 4.5	105.8%	74.9	+ 7.6	+ 10.1%
	紹介件数 (件)	5,317	5,716	▲ 399	93.0%	5,186	+ 131	+ 2.5%
	逆紹介率 (%)	96.3	88.0	+ 8.3	109.4%	81.5	+ 14.8	+ 18.2%
	逆紹介件数 (件)	4,906	5,214	▲ 308	94.1%	4,554	+ 352	+ 7.7%

※「応需率(補正後)」は、満床や診療中などのやむを得ずお断りした事例を要請件数から差し引いて算出しています。

【主な増減項目と内訳】

項目	計画との比較		前年度との比較		
	増減値	増減理由など	増減値	増減理由など	
入院	1日平均患者数 (人/日)	▲ 11.8	▲ 0.4	・新入院患者数(コロナ)の減少	
	一般 (人/日)	-	+ 2.9		
	コロナ (人/日)	-	▲ 3.3		
	病床稼働率(151床) (%)	▲ 7.7	-		
	新入院患者数 (人)	▲ 109	・紹介件数の計画未達	▲ 43	
	平均在院日数 (日)	▲ 0.5	・在院日数が比較的短い患者の割合増加	+ 0.2	・在院日数が比較的長い患者の割合増加
	診療単価 (円)	+ 4,639	・機能評価係数Ⅰの増加 ・新型コロナウイルスに対する診療報酬加算の有無 (計画：なし、実績：あり)	+ 3,936	・機能評価係数Ⅰの増加
外来	1日平均患者数 (人/日)	▲ 12.0	・紹介件数の計画未達	▲ 12.4	・初診患者数の減少 ・眼科等の患者数減少
	診療単価 (円)	▲ 120	・診療単価が比較的安価な患者の割合増加	▲ 56	・同左
その他 指標	救急搬送受入件数 (件)	+ 39	・要請件数及び救急搬送応需率の増加	+ 39	・同左
	救急搬送応需率 (%)	-		+ 3.0	
	応需率(補正後) (%)	▲ 1.5		+ 1.0	
	紹介率 (%)	+ 4.5	・初診患者数の減少	+ 7.6	・同左 ・紹介件数の増加
	紹介件数 (件)	▲ 399	・内科等の紹介件数の減少	+ 131	・皮膚科等の紹介件数の増加
	逆紹介率 (%)	+ 8.3	・初診患者数の減少	+ 14.8	・同左 ・逆紹介件数の増加
	逆紹介件数 (件)	▲ 308	・紹介件数の計画未達	+ 352	・紹介件数の増加

※「機能評価係数Ⅰ」は、DPC制度において、医療機関の人員配置や機能等、医療機関単位での構造的因子を評価する入院基本料等加算等を係数として設定したものです。

4. 分析と課題（計画値との比較）

（1）入院収益に関して

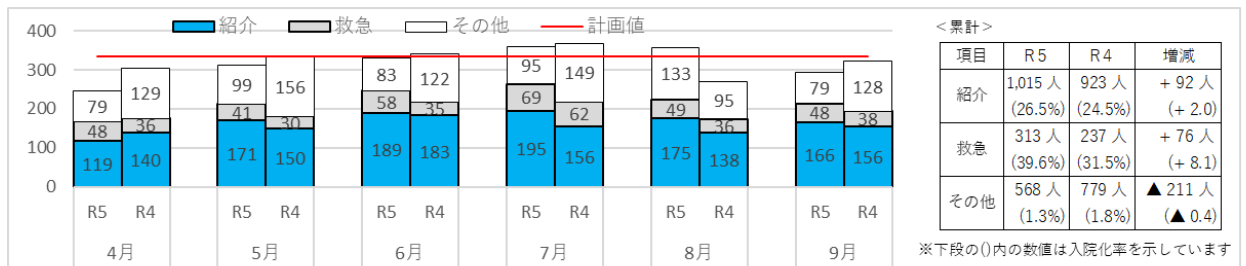
①入院収益が計画値を下回った要因

- ・入院収益は約 12 億 8,100 万円となり、計画値を約 4,000 万円下回りました。
- ・要因は、入院患者数が 109.2 人/日(病床稼働率 72.3%)となり、計画値を約 12 人/日下回ったことが挙げられますが、在院日数は 10.5 日となり計画値と同程度であるため、主たる要因としては、新入院患者数が 1,896 人となり、計画値を 109 人下回ったことであると考えています。

②新入院患者数が計画を下回った要因

- ・月別では、7月、8月を除き計画値には届かず、多くの月で前年同月に比べて減少しました。
- ・経路別では、「紹介」及び「救急」からの患者数は前年度に比べて増加していますが、通院患者で急性憎悪等により入院する場合など「その他」からの患者数が減少しています。
- ・「その他」からの患者数の減少は、地域診療所との役割分担が進んでいることの裏返しであることから、新入院患者数のさらなる獲得に向けては、「紹介」及び「救急」からの患者数増加を図る必要があります。

<新入院患者数（経路別、月別）>



③さらなる収益増加に向けた課題

●紹介からの患者数のさらなる増加が必要

- ・「紹介」からの入院患者数は 1,015 人で、前年度実績を 92 人上回りましたが、紹介件数自体は計画に届いておらず、前年度実績をわずかに上回る水準となっています。
- ・紹介件数のうち、入院につながった患者の割合は増加しており、「紹介」からの患者数の増加を図るためには、紹介件数の底上げが必要です。

<紹介件数（月別）>



●増加する救急搬送要請件数への対応

- ・診療時間内の救急応需体制について、10月から専攻医を中心とした専任配置制を試行的に実施していますが、一定期間を経た後、早期に同体制の検証を行い、本格実施に向けて取組を推進していく必要があります。

●感染症対策の徹底

- ・院内感染は、患者の安全性を脅かすとともに病院経営に多大な影響を及ぼします。市民が安心して受診できるよう、基本的な感染防止対策を継続し、受診環境の維持・向上に取り組む必要があります。

(2) 外来収益に関して

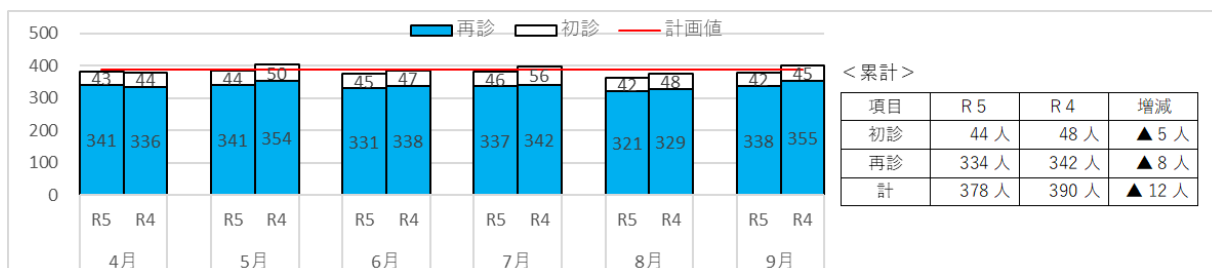
①外来収益が計画値を下回った要因

- ・外来収益は約7億7,500万円となり、計画値を約1,600万円下回りました。要因としては、紹介件数が計画値を399人下回ったことなどにより、1日当たりの外来患者数が378人となり、計画値を12人下回ったことが挙げられます。

②さらなる収益増加に向けた課題

- ・中央病院では、地域の診療所等との役割分担の観点から、紹介状を持参しない初診患者の場合、初診時選定療養費(7,000円)を徴収するため、こうした患者の増加を図ることは現実的ではありません。
- ・初再診別の患者数を見ると初診患者数が前年度に比べて減少していますが、紹介率(初診患者数のうち紹介件数の占める割合)は82.5%と前年度より向上しており、地域診療所との役割分担はできているといえます。
- ・したがって、外来患者数の増加を図るためには紹介件数の増加が必要と考えています。

<外来患者数(月別、初再診別)>



5. 課題への対応と今後の方針

(1) 新型コロナ対応に向けた取組

- ・10月以降については、新型コロナ対応にかかる補助金は見込みませんが、公立病院としての役割を果たす観点から、新型コロナの通常対応への完全移行までの間、発熱外来の継続や入院受入れ用の病床確保などの取組を継続します。
- ・感染管理を徹底するために、今後も新たな情報や知見に基づき随時マニュアル等の見直しを行うとともに、感染拡大及び院内感染防止に向けた取組を徹底します。

(2) 病床稼働率及び収益向上に向けた取組

①地域の診療所等との連携強化による紹介患者のさらなる獲得

- ・診療所訪問について、各科の実情に応じた訪問先の選定や訪問時のPRの強化に向けた取組を検討、実施します。

②増加する救急搬送要請件数への対応

- ・診療時間内の救急応需体制について、10月から専攻医を中心とした専任配置制を試行的に実施していますが、一定期間を経た後、早期に同体制の検証を行い、本格実施に向けて取組を推進します。(再掲)

③DPCデータ等を活用した経営改善の取組の継続

- ・他病院とのベンチマーク比較を通じて、引き続き、各指導料等の算定率向上に取り組みます。
- ・後発医薬品の積極的な利用を推進し、後発医薬品の使用割合90%以上の維持に努めます。
- ・医療的及び経営的な面から、必要に応じてデータ分析を行い、医療の質の向上とともに収益向上や費用の適正化に資する取組を検討、実施します。

④部門別ヒアリング等の実施

- ・10月から11月にかけての病床稼働率の低下を受けて、事業管理者が各診療科の長等を集め、稼働率向上に向けた取組のさらなる強化を指示しました。引き続き、病床稼働率が伸び悩む診療科については、経営層によるヒアリングを随時実施し、早急に対策を講じます。

(3) 職員の意識醸成

経営会議（毎週開催）及び運営協議会（毎月開催）において、業務指標及び経営状況の情報共有を行うとともに、各部門における医療の質・安全性の向上、業務の効率化などの取組を全職員へ情報発信し、職員の経営参画意識の高揚を図ります。

(参考) 経営状況に関する院内でのモニタリング状況

頻度	主な実施内容など
日次	・電子カルテ上に当日の病床稼働状況を表示し、職員間で共有しています。
週次	・経営会議で前週の経営状況や病床稼働状況を報告しています。 ・看護師長会で前週の各病棟別の病床稼働状況を報告しています。
月次	・各部門の長が出席する運営協議会で前月の経営状況を報告しています。

(参考) 診療科別入院・外来関連指標

入院関連指標

診療科	項目	単位	R5年度 上半期	R4年度 上半期	増減
内科	入院収益	千円	650,957	647,138	+3,819
	入院患者延べ数	人	11,320	11,961	▲ 641
	1日平均患者数	人/日	61.9	65.4	▲ 3.5
	新入院患者数	人	941	957	▲ 16
	平均在院日数	日	12.2	12.6	▲ 0.4
	診療単価	円	57,505	54,104	+3,401
	入院手術件数	件	196	243	▲ 47
外科	入院収益	千円	248,409	218,044	+30,365
	入院患者延べ数	人	2,708	2,675	+33
	1日平均患者数	人/日	14.8	14.6	+0.2
	新入院患者数	人	240	232	+8
	平均在院日数	日	10.9	11.2	▲ 0.3
	診療単価	円	91,732	81,512	+10,220
	入院手術件数	件	215	213	+2
整形外科	入院収益	千円	67,361	66,205	+1,156
	入院患者延べ数	人	1,246	1,224	+22
	1日平均患者数	人/日	6.8	6.7	+0.1
	新入院患者数	人	69	74	▲ 5
	平均在院日数	日	17.3	15.9	+1.4
	診療単価	円	54,062	54,089	▲ 27
	入院手術件数	件	58	72	▲ 14
小児科	入院収益	千円	72,031	50,975	+21,056
	入院患者延べ数	人	809	492	+317
	1日平均患者数	人/日	4.4	2.7	+1.7
	新入院患者数	人	184	129	+55
	平均在院日数	日	4.4	3.8	+0.6
	診療単価	円	89,038	103,607	▲ 14,569
	入院手術件数	件	0	0	± 0
皮膚科	入院収益	千円	34,105	24,267	+9,838
	入院患者延べ数	人	760	573	+187
	1日平均患者数	人/日	4.2	3.1	+1.1
	新入院患者数	人	54	54	± 0
	平均在院日数	日	14.5	10.5	+4.0
	診療単価	円	44,875	42,351	+2,524
	入院手術件数	件	17	18	▲ 1
泌尿器科	入院収益	千円	164,066	147,880	+16,186
	入院患者延べ数	人	2,168	2,248	▲ 80
	1日平均患者数	人/日	11.8	12.3	▲ 0.5
	新入院患者数	人	243	245	▲ 2
	平均在院日数	日	8.8	9.1	▲ 0.3
	診療単価	円	75,676	65,783	+9,893
	入院手術件数	件	155	156	▲ 1
眼科	入院収益	千円	16,258	37,669	▲ 21,411
	入院患者延べ数	人	161	357	▲ 196
	1日平均患者数	人/日	0.9	2.0	▲ 1.1
	新入院患者数	人	74	175	▲ 101
	平均在院日数	日	2.2	2.0	+0.2
	診療単価	円	100,984	105,516	▲ 4,533
	入院手術件数	件	76	182	▲ 106
歯科口腔外科	入院収益	千円	34,113	21,598	+12,515
	入院患者延べ数	人	584	446	+138
	1日平均患者数	人/日	3.2	2.4	+0.8
	新入院患者数	人	76	64	+12
	平均在院日数	日	7.8	6.8	+1.0
	診療単価	円	58,412	48,426	+9,986
	入院手術件数	件	175	142	+33
麻酔科	入院収益	千円	11,146	4,100	+7,046
	入院患者延べ数	人	222	75	+147
	1日平均患者数	人/日	1.2	0.4	+0.8
	新入院患者数	人	15	9	+6
	平均在院日数	日	13.9	8.8	+5.1
	診療単価	円	50,208	54,665	▲ 4,457
	入院手術件数	件	8	5	+3

外来関連指標

診療科	項目	単位	R5年度 上半期	R4年度 上半期	増減
内科	外来収益	千円	344,506	337,360	+7,146
	外来患者延べ数	人	13,911	13,944	▲ 33
	1日平均患者数	人/日	228.0	232.4	▲ 4.4
	紹介件数	件	1,498	1,529	▲ 31
	逆紹介件数	件	1,478	1,271	+207
	診療単価	円	24,765	24,194	+571
	入院手術件数	件	100,267	123,468	▲ 23,201
外科	外来収益	千円	100,267	123,468	▲ 23,201
	外来患者延べ数	人	4,596	4,973	▲ 377
	1日平均患者数	人/日	75.3	82.9	▲ 7.6
	紹介件数	件	208	200	+8
	逆紹介件数	件	298	285	+13
	診療単価	円	21,816	24,828	▲ 3,011
	入院手術件数	件	27,924	29,928	▲ 2,004
整形外科	外来収益	千円	27,924	29,928	▲ 2,004
	外来患者延べ数	人	2,917	3,126	▲ 209
	1日平均患者数	人/日	47.8	52.1	▲ 4.3
	紹介件数	件	292	326	▲ 34
	逆紹介件数	件	277	305	▲ 28
	診療単価	円	9,573	9,574	▲ 1
	入院手術件数	件	23,932	23,056	+876
小児科	外来収益	千円	23,932	23,056	+876
	外来患者延べ数	人	2,508	2,454	+54
	1日平均患者数	人/日	41.1	40.9	+0.2
	紹介件数	件	359	280	+79
	逆紹介件数	件	89	79	+10
	診療単価	円	9,542	9,395	+147
	入院手術件数	件	42,578	43,823	▲ 1,245
皮膚科	外来収益	千円	42,578	43,823	▲ 1,245
	外来患者延べ数	人	4,574	4,227	+347
	1日平均患者数	人/日	75.0	70.5	+4.5
	紹介件数	件	520	437	+83
	逆紹介件数	件	378	222	+156
	診療単価	円	9,309	10,367	▲ 1,059
	入院手術件数	件	92,923	85,127	+7,796
泌尿器科	外来収益	千円	92,923	85,127	+7,796
	外来患者延べ数	人	5,569	5,626	▲ 57
	1日平均患者数	人/日	91.3	93.8	▲ 2.5
	紹介件数	件	307	311	▲ 4
	逆紹介件数	件	388	402	▲ 14
	診療単価	円	16,686	15,131	+1,555
	入院手術件数	件	16,512	22,730	▲ 6,218
眼科	外来収益	千円	16,512	22,730	▲ 6,218
	外来患者延べ数	人	1,998	2,457	▲ 459
	1日平均患者数	人/日	32.8	41.0	▲ 8.2
	紹介件数	件	68	102	▲ 34
	逆紹介件数	件	63	126	▲ 63
	診療単価	円	8,264	9,251	▲ 987
	入院手術件数	件	30,548	30,278	+270
歯科口腔外科	外来収益	千円	30,548	30,278	+270
	外来患者延べ数	人	2,844	3,051	▲ 207
	1日平均患者数	人/日	46.6	50.9	▲ 4.3
	紹介件数	件	493	468	+25
	逆紹介件数	件	436	428	+8
	診療単価	円	10,741	9,924	+818
	入院手術件数	件	34,521	36,463	▲ 1,942
麻酔科	外来収益	千円	34,521	36,463	▲ 1,942
	外来患者延べ数	人	4,232	4,378	▲ 146
	1日平均患者数	人/日	69.4	73.0	▲ 3.6
	紹介件数	件	81	113	▲ 32
	逆紹介件数	件	40	42	▲ 2
	診療単価	円	8,157	8,329	▲ 172
	入院手術件数	件	8,157	8,329	▲ 172